

1. 「顎は本当に小進化しているのか」

九州歯科大学小児歯科学講座教授

木村 光 孝

生物はその時代の流れの中で、環境に適応しながら生存してきた。しかし幾度か形質を変え進化している。その中でも、爬虫類から哺乳類へ至る経過こそ大きな進化と報告されている。

人類における進化は小進化と呼ばれ20万年前から現代までと記述されている。

顎骨は先史時代から歴史時代を通じて変化している。この一連の過程は人類の進化の過程で現われている。このことは進化現象としてとらえなければならない。人類が生存していくためには、文化の発達に伴い生活環境に適応しなければならない。そのためにはその時代の食生活が顎顔面骨の発育に大いに関与していると思われる。今回報告する顎骨の小進化は突然変異によって遺伝子に関与する進化現象としてとらえるものではなく、20～30年間に急激に変化した食生活の流れの中で歯の大きさに対して顎骨が小さいため不調和を呈し、ディスクレパンシーが生じているのも事実である。

そこで現代の小児の食生活環境が顎骨の発育を悪くし、小さくなっている小進化を意味するものであり、後天的な環境要因としてとらえたものである。

そこで顎骨は本当に小さくなっているのか臨床的評価および、実験的データに基づき述べることにする。